



編集長(ダン シロウ)

六年目に入ったマガジン。今回からの新連載が四本。少々欲張りすぎの拡大路線だが、それぞれ興味深いことが書いていただけていると思う。まず順調な航行を継続できている Web マガジンだと思う。どうぞ、好きなところからお楽しみ下さい。

ノンフィクション雑誌 [G 2] 講談社刊が先日、19号をもって休刊となった。目に付いた時には、ほぼ毎号購入していたが、全てを読んでいたわけではない。

こういう媒体が商品として継続的に存在するためには、読者から賛同の意志表示がなければならない。それは具体的には金を出して買うことである。だから記事の全てを読むかどうかは微妙だが、とにかく私は買っていた。しかしそんな読者を一億人以上の人口から1万人も確保できないということで休刊・店じまいになってしまった。

一方このマガジン、販売していないから商品ではない。原稿料も出していない。印刷物として制作しないから、そこにもコストはかかっていない。発送費用や在庫管理費、執筆者、読者への様々な用件は基本的にない。おまけにカラーページ入れ放題、動画や自分のHP、ブログへのリンクもイッパツだ。ここから出発したのに、戻って来ない読者もあるかもしれ

れない。

そんなことも含めて、Web マガジンであることを最大限に生かして、ゆっくり進化させてきたつもりだ。

6年目の第21号発行に向けて執筆者の皆さんに送ったメッセージを後に掲載しておく。水野スウさんも執筆者短信のところで触れてくださっているが、意図を形にし、持続可能なものにして社会に定着させていく。大変化ではない。システム論者の考える社会変革とはこういう事である。

◆21号 執筆者の皆様へ◆

対人援助学マガジン編集長の団です。20号では、私の都合で発刊が遅れましたこと、お詫びします。

さて、第6巻 No.1 (21号)は予定通り、5月25日締め切り、6月15日発行の予定をしています。執筆のスケジュールをどうぞ整えておいてください。

20号では病気ややむを得ない事情で休載になった方が相次ぎました。その結果、少々スリムサイズになりました。どうぞ6年目のスタート、21号では元気で復帰をお願いします。マガジンは時代に逆行して「肥満」を目指しています。

対人援助学マガジンも6年目を迎えます。基本的にこのマガジン自体は目的の成果物ではなく、執筆者の皆さんや、読者の方達の共用ステージだと考えています。

この場があるから記録され、次の時代に向けたメモとして残ってゆく。私達は何事も簡単に忘却し、同じ過ちを繰り返してしまう生き物です。そのことを忘れないためには共有できる記録を残すことだと思います。自慢の昔話ではなく、検討可能な時代の記録はいつも必要です。

何かがあったときだけではなく、私達それぞれの目が及ぶ範囲の今を、自分の言葉で整理して記述する。その意味の大きさは、時間が経つほどに明らかになってきます。

5年前にスタートした時、考えてもいなかった今に立っている方も少なくないでしょう。又5年経ったら、マガジンの10周年を迎えます。その時、どんな事態が待ち受けているのか、誰も予想することは出来ないと思います。できることなら、今のようなことを言い続けていられることを願います。

編集員(チバ アキオ)

ネットに上がったものは半永久的に消えない。そのことによる被害が問題となり、「忘れられる権利」として話題になっている。また、故人がネット上に残したものを「ネット遺産」といい、故人自身しかアクセスできない状況に死後もあり続けることも問題になっている。そんななか、このマガジンの執筆陣はこうしてwebマガジンの連載を続けている。書き残すことで起こる何もかもを引き受けている。

なおかつである。多くの執筆者はいわゆるギリギリのところをテーマにして記している。その努力や繊細な気遣いがあちこちに感じられる。「この文章を、もしもこの立場の人が読んだなら…」と何度も試行錯誤し、さらにそんな読み手にもメッセージを残していることが多い。みんなが行儀よく、だれが見ても「シロ」の記録ばかりを残してはそれだけがこの世の中に起こっている事実の全てと思われかねない。世の中には「クロ」もあるし、「グレー」もある。このマガジンには

「グレー」といえるような、普段は多くの関係者が書かないテーマ、タブーとされてきたことも出てくる。時にはさまざまなリアクション生む可能性を含んでいる。しかし、こうして広く日に当たるところで記録をしなければ、世の中にそういった事実は存在しないのも同然となってしまう。

無料のWeb雑誌で、ギリギリのテーマで、そして連載。これ自体が新しい連載のデザインといえる。今までしてないことを起こすことは変化のチャンスになりうる。

編集員 オオタニタカシ

先日、大阪市で大阪都構想をめぐる住民投票があり、否決という結果を受けて、橋下市長が任期満了ののち政界を引退すると明言しました。その後は、都構想や橋下氏の政治手法、住民投票による意思決定という方法の是非等について新聞やTVが賑わっているところですが、その中で橋下氏が『必要とされた一時、公に務めるために政治家になったのであり、また弁護士に戻る』と発言したことに注目しているものがありました。それは多分正しくて、政治の世界で「当選回数〇回で入閣」とかいう一般の感覚からは乖離したルールがまかり通っていることが、政治家が国民に「政治屋」と揶揄されるような現状を生み出しているのだらうと思います。短信でも書きましたが、久しぶりに大学に戻って同じようなことを思いました。私は必要があって3年間の有期で学生になる選択をしましたが、その期限が過ぎればまた今取り組んでいる仕事に戻って行きます。大学というシステムを考えた時、このような使い方ももっ

とあってよいのではないかと思います。
マガジンも20号を超え、新連載も次々
始まる中、当初から連載されていた方が
区切りをつけられることも出てきて、『出
たり入ったり』が自然に生じる状況にな
ってきました。これは、きっと健全です。
『マガジン』というプラットフォームを
必要と思われた方は、あまり先のことま
で考えなくてもいいのです。ぜひ、今こ
の一時をご一緒しましょう。

■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は
danufufu@osk.3web.ne.jp

マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町438
ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

対人援助学マガジン

通巻21号

第6巻 第一号
2015年06月15日発行
<http://humanservices.jp/>

第22号は2015年9月15日
発刊の予定です。

原稿締切2015年8月25日！

新規執筆者を常に募っています。連載誌
ですが、必ず何回以上と決めているわけ
はありません。必要な回数、書いていただ
けるよう設定しています。ご希望の方、編集
長まで執筆企画をお知らせ下さい。

対人援助学会事務局

〒603-5877 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学大学院応用人間科学研究科内
TEL:075-465-8375 FAX:075-465-8364

対人援助学会事務担当

入会・退会・変更届

〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1
リファレンス内
TEL/FAX 学会専用:06-6910-0103

表紙の言葉

ミラクル

二人は姉弟。他に末っ子の妹と
父親が来談していた。主訴は長男
の非行。中学三年にもなって、ま
だそんなことをしている…と、学
校や近隣での評判が悪かった。み
んなが困り切っていたときに、家
族面接を実施して会った。

面接でどんなことが起きたか
は、『木陰の物語一八〇話』に描い
た（機会があれば、ご覧下さい。
タイトルは「ひとつめ」。

人は様々な方法で復活をする。
無論、意図を持って取り組まれる
努力も多いが、たまに思いがけず
起こるミラクルもある。この面接
ではそれが起きた。